

てんかん「正しい知識を」東区

脳疾患のてんかんをテーマにした市民フォーラム「てんかんを考える」コロナ禍に向き合うために」

(中国新聞社主催)が1日、広島市東区の県医師会館であった。

てんかんは脳神経細胞の突発的な活動によりけいれんなどの発作を起こす慢性疾患。広島大病院てんかんセンター(南区)の飯田幸治センター長は「けいれん

などの発作は、必ずしもてんかんが原因というわけではない。スマホなどで症状を録画しておく」と医師が判

断しやすい」と訴えた。

新型コロナウイルスとの関連について石川暢恒副センター長は「てんかんで新型コロナウイルスの患者が重症化した報告はない」と説明。同

病院感染症科の大毛宏喜教授は、コロナ予防に向けたマスク着用と手洗いの重要性を改めて強調した。

ウェブを通じた視聴も含め、患者や家族たち約200人が参加した。飯田センター長は「てんかんも新型コロナウイルスも、正しい知識を持たなければ差別が生まれる。啓発を続けたい」と話していた。

(加田智之)

中国新聞の許諾を得ています

掲載日付：2020年11月2日